

アイリス Letter

保護者の皆様へ



2025年7月23日発行
第2号
広島女学院中学高等学校

<聖書のことば>

恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。
たじろぐな、わたしはあなたの神。
勢いを与えてあなたを助け
わたしの救いの右の手であなたを支える。

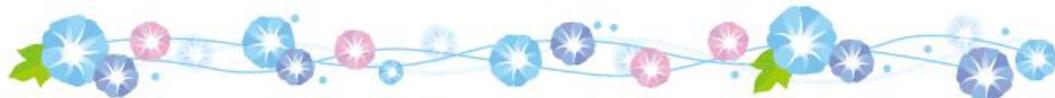
イザヤ書 41章10節

1学期が終わりました。6月、7月とたくさんの行事があり、生徒たちは精いっぱい活躍してくれました。体育大会を中1から高3まですべての生徒が、心と体で楽しむ様子はとても素敵でした。6月には、中学生全員で、原爆体験継承漫才の鑑賞がありました。平和を学ぶときに笑いほと思う気持ちもありましたが、知性のみが優先しがちの学びではなく、体全体で平和を実現することの大切さを感じることでできる素晴らしい時間となりました。平和を祈る週、音楽鑑賞会、高校のみですが、グローバル研究成果発表会、健康教育講演会など多くの事に出会いました。その出会いを大切にしてほしいと思います。

さて、2学期始業の日9月1日までの39日間の夏休みとなります。終業礼拝で生徒に、何かに挑戦する夏にしてほしいと話しました。勉強やクラブなどのやらなくてはいけない事でも、日頃ではできない自分がやりたいことでもよく、ほんの小さなことでも良いので挑戦してほしいと思います。その向こうにあるのは、成長した自分ですが、この成長ということばも、その価値を周りが自分に期待する価値ではなく、自分が本当に求めたい価値に対するものを求めてほしいです。それは一人では中々できないことです。ですから、自分の足で一歩外に向かい、他の人とつながることがとても大切なのだと思います。

聖書に、「恐れることはない」ということばがたくさん出てきます。私たちが恐れることの多くは、周りから与えられることに対してのことが多いです。一方、神様があなたは大切ですよと与えてくれていることをおろそかにしていることに気づくことも、中々できないですね。その両方を含めて、「わたしはあなたと共にいる」と言われる神様の言葉に立ち、健康を守られ、平安のある夏休みの時が、生徒そしてご家族の皆様にありますよう、お祈りいたします。

(校長)



生徒支援部より

夏休みが始まります。自由になる時間が増えますが、自分の「生活」をマネジメントする力は、「学び」をマネジメントする力であり、これからの「自分の将来」を切り拓いていく力にも繋がります。別に配布している「夏休みの注意事項」のプリントをよく読んで、生活リズムを整えて実りある夏休みにして下さい。ご家庭でも生活面の指導を継続的に宜しく願います。

登下校については、夏休み中も学期中と同様に、公共交通機関や自転車、徒歩でおこなってください。車での送迎は、近隣のマンション等に迷惑がかかってしまいます。

また、SNSを中心としたスマホやパソコンの利用については各自でコントロールしましょう。ネット（主にスマートフォン）の影響力については、近年様々な視点から研究が進んできました。思春期の過度な利用によって、学習面（脳の認知能力への影響）、生活面（ネット依存、自己肯定感の低下）、人間関係の面（友人関係のトラブルだけでなく、ソーシャルスキル・コミュニケーション能力そのものの低下）、社会的リスクの面（性犯罪、裏バイト、薬物などの被害）といった多様な課題が明らかになりつつあります。



そして、長期休みはネットへの依存性が高まりやすい時期です。一方でネットが社会においてインフラ化していることも事実です。よってネットとどう付き合っていくのか（スマホを所有するのか、ルールはどうするのか、その影響力を親子で理解し共有する等）は、まさに子ども達の人生にも関わってくる課題と言えます。

オーストラリアでは、若者層のSNS利用を規制する法律を可決されましたし、先日の新聞にはEUでもフランスを中心に議論が進んでいるという情報もあります。まさに国際的な課題となっていることを感じずにはられません。

スマホやSNSとの付き合い方については、4月～5月に、生徒対象の講演会をおこなっています。今年度は外部からではなく生徒支援部主催の講演とし、生徒のネットに関するアンケートを踏まえ、ネットに自分がどう関わっているのかを学びました。

また、父親母親教室の一環として、「ネットリテラシー講演 - 5つの視点から -」を動画配信します（生徒支援部作成）。生徒へのアンケートを踏まえた、生徒向け講演の内容だけでなく、保護者として知っておいていただきたいこと等も講演内容に入れています。生徒を取り巻くネットの現状や、今後の関わりについてのヒントになれば幸いです。さくら連絡網にてアドレスを配信しますので、是非アクセスしてご視聴下さい。今後も保護者の方と共に学んでいければと考えております。思春期の中高生がネットとの付き合い方を学ぶには、ご家庭の理解と協力が必要不可欠です。引き続き、ご家庭でもご指導のほど宜しくお願い致します。

「全力で遊び、全力で学ぶ」、そんな夏にしてもらいたいと願っております。

（生徒支援部）

原爆体験継承漫才（中学）

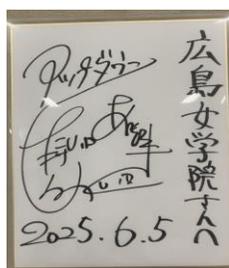
「原爆体験継承漫才」に取り組む北海道出身の漫才コンビ「アップダウン」のお二方を、6月5日（木）3・4限にお招きし、中学1～3年生が鑑賞しました。漫才だけで

なく音楽・朗読劇を含めた総合芸術として、長崎での惨禍と戦時中の日常生活を伝えて頂きました。

漫才というのは、私たちにとってとても新鮮な平和発信の方法でしたが、戦争は人々の心の中にひびを生むこと、想像することの大切さを深く考えることができました。以下はある生徒の感想の抜粋です。

正直なところ「私たちが厳粛な雰囲気の中で学んでいるような原爆というものについて、楽しく学ぶということは本当に可能なのかな…？」という思いがありました。楽しく学ぶということは、被爆していない私たちがしてよいことなのかどうかもわからず不安でした。しかし実際にアップダウンのお二方が作り出す「笑い」は、原爆について面白さを見出しているのではなく、原爆投下の悲しみの中にも今と同じ「笑い」があったということ私たちを教えてくれるのだとわかりました。「原爆」という手に負えないことを「漫才」という形にするにあたり、お二方が本当にたくさんの努力をされていることがわかりました。
(略)

今まで「自分が体験したわけでもない」ことについて、事実を知るだけでいっぱい、当時の人々の気持ちまで理解するなんて到底無理だろう…、と諦めていたのが、今日のお二方のやり取りを見ているうちに「私たちが平和学習をするにおいても、戦争の事実を正しく知ると同じくらい、『想像する』ということは大切なことなんだ」と気づき、自分なりにでも当時の人々の気持ちを理解してみようと思いました。



アップダウンのお二方のメッセージを、時に大笑いしながら、時にすすり泣きしながらまっすぐに受け止め、戦争と平和について再考するひと時となりました。また質疑応答の時間では質問が相次ぎました。

この夏被爆80年を迎えます。想像すること、学ぶこと、そして多くの人に伝えていく歩みを止めてはならないことを再認識できた「原爆体験継承漫才」でした。

(グローバル教育推進部)

体育大会

6月10日(火)、グリーンアリーナにて体育大会が開催されました。

例年はクラスごとに五色に分かれて競い合いますが、今年度の中1は6クラス編成のため、中1のみ出席番号順に五色に分かれるというイレギュラーな形となりました。

学年競技では、どの学年もクラス一丸となって勝利を目指す姿が見られました。特に、最後の体育大会に臨む高3の「むかで競走」は、さすが2年目のクラスといったまとまりが感



じられ、担任の先生も一緒になり息のぴったり合ったスムーズな足運びが印象的でした。リレー競技では、日頃は見られないような、全力で走り、全力で応援し合う生徒たちの姿が見られました。転んでしまったりバトンを落としたりして悔し涙を流す姿なども見られ、様々な感情の入り混じる、まさに「体育大会の華」といった競技でした。



今年度は、2019年度を最後に実施していなかった運動部対抗リレーが復活しました。日ごろから部活動で鍛えている運動部の生徒たちの走りは圧巻でした。その他にも高1の学年ダンスや着せつけ競走、応援団の応援合戦など、多彩な競技が体育大会をいっそう華やかに彩りました。



今年度から、より生徒主体の体育大会になるように、準備や運営に多くの生徒に関わってもらいました。また、応援の一体感を高めるため、競技フロア上に「エキサイティングエリア」を設け、競技をより近くで応援できるよう工夫しました。来年度以降も、さらに生徒が中心となって作り上げる体育大会を目指していきたく考えています。

当日は、グリーンアリーナ内とは大違いの大雨の中、多くの保護者の皆様に足をお運びいただき、多くの声援に包まれた温かい体育大会になりました。ありがとうございました。

当日は、グリーンアリーナ内とは大違いの大雨の中、多くの保護者の皆様に足をお運びいただき、多くの声援に包まれた温かい体育大会になりました。ありがとうございました。

(体育科)

平和を祈る週（6/16～6/21）

6月21日（土）の特別礼拝は、ルワンダ出身の永遠瑠（とわり）マリールイズさん（NPO法人「ルワンダの教育を考える会」理事長）をお迎えし、主題「平和な未来への扉 ～ルワンダの学校の教室から～教育は未来への扉」、主題聖句「イエスはいわれた。「わたしの羊を飼いなさい。」（ヨハネによる福音書 21 章 17 節）のもと、実施されました。



礼拝では、ご自身の経験に基づき、平和の実現のために「教育」が如何に大切であるかについてお話ししてくださいました。マリールイズさんはルワンダ女性としては当時には珍しく高校まで卒業、洋裁の専門学校教師になり、JICAの青年海外協力隊の現地協力員として働いたことが大きな導きとなり、1994年来日し福島で10ヶ月間研修を受けました。ホームステイ先の80歳のおばあさんが新聞を読めることに衝撃を受け、またそのおばあさんの厳しくも温かい日本語指導のおかげで日本語を身につけることができました。帰国後、1994年に内戦が勃発、100万人が虐殺されたとも言われる混乱の中、2歳から6歳の3人の幼子連れて命からがら、難民キャンプ



にたどりつきます。福島の友人たちに無事を知らせる日本語のファックスを持って長い列に並んでいたところを、支援に来ていた日本人医師が目を留め、通訳を頼まれます。難民の受け入れに厳しい日本になんとか入国できるよう友人たちが奔走し、留学生として家族と共に再来日。教育のおかげで自分も家族も生き延びられた経験から、祖国ルワンダの未来のために教育こそ必要と考え、ルワンダに学校を作る NPO を立ち上げました。「学ぶチャンスがあるからこそ未来に夢を持てる」「みんなが願わないと平和は訪れない」「この世界を変えていくことができる自分の命に、もっと真剣に向き合って」「教育が開いてくれる扉を通して世界の人とつながって下さい」と学ぶことの意味、生きることの意味をたくさん教えられました。

週間中の中学では、上空通路を舞台に各クラスで作成した平和へのメッセージを展示した「女学院平和ロード」を作りました。また、朝の登校時に各学年の礼拝委員の生徒が先生と共に、校門の前で挨拶を行いました。昨年に続く校門での挨拶を通して、お互いの笑顔が溢れる光景が多く見られました。



中学では様々なお昼の集いが行われました。月曜日には中1礼拝委員企画「行列のできない女学院相談所」がゲーンホール前で行われ、大勢の生徒が先生方に相談しに来てくれて、行列ができてしまいました。火曜日には中3礼拝委員企画の「なんでも女学院クイズ」が、水曜日には中2礼拝委員企画の「先生にインタビュー」の動画が、第1 AV教室にて上映されました。様々な生徒企画を通して、女学院生ならでの「平和」とは何かについて遭遇する貴重な一時でした。

高校の昼の集いでは、宗教委員長を中心として、有志の参加ではなく、各クラスでみんなが参加する企画を考えました。1年生の企画では「アオギリのうた」を放送で流し、曲の歌詞をもとに各クラスで平和について考えました。2年生の企画では、恒例になりつつある先生インタビューを行いました。今回は三人の先生方をお願いをして、これまでに読まれた平和に関する本や、女学院での日々の学びがどのように平和に結びついているのかについてもお答えいただきました。2年生、3年生の合同企画では、特別礼拝の講師として来られたマリールイズさんとのかかわりから、ルワンダの平和について考える企画を練りました。「サダコの絵本プロジェクト」として昨年ルワンダに送られた絵本、「おりづるの旅」の朗読を放送で行い、各クラスで平和について考えました。また、高校校舎の掲示板には「おりづるの旅」を読むルワンダの子供たちの当時の写真やポスターの掲示をしました。それぞれが絵本の朗読や曲を聞く中で、自分にとっての平和を考える良い機会となりました。

特別礼拝後、講師を囲む会では、短い時間ではありましたが高校チャペルがいっぱいになるくらい沢山の生徒、教職員が集い、積極的に質問をする姿が見られました。マリールイズさんとの貴重な出会いを通して、それぞれの心に平和を想う種がまかれていったことでしょう。平和とは何かという問いは、考え続



けても結論が出ないことかもしれません。しかし、常に考え、求め続けることが大切であるとマリールイズさんは語られました。私たちも諦めることなく、自分の身近なところから平和を思い、祈ることができますように。

(宗教教育委員会)

グローバル研究・成果発表会（高校）

6月28日（土）3・4限に、グローバル研究・成果発表会を行いました。韓国語のスピーチと、海外研修・留学に参加した皆さん、Global Issues 選択生からの活動報告を行いました。会場の生徒の皆さんからもたくさんの質問が出て、学び多い時間となりました。

プログラムは以下の通りです。

◆韓国語スピーチの部

『私と韓国語』（高3 日韓青少年交流事業韓国語スピーチコンテスト出場者）

◆海外研修・留学報告の部

1. 韓国研修（高2）
2. カンボジア研修事後学習（高1，2）
3. マウントユニオン大学研修（高1，高2）
4. ニュージーランドターム留学（高1）



◆活動報告の部

『Global Connect Project ～All for Palestine, All for Peace～』

(高3 GI 選択生)

閉会の言葉の中で、司会のオサラバン先生が「これからも世界を飛び出し、新しい発見を！」とおっしゃいました。

この発表会が、みなさんが世界に一步踏み出すきっかけとなり、様々な出会いや学びに繋がることを願っています。

(グローバル教育推進部)

鑑賞行事

6月20日（金）にゲーンズホールに於いて、ヴァイオリン奏者の長原幸太さん、ホルン奏者の福川伸陽さん、ピアニストの内門卓也さんをお招きして音楽鑑賞会が開かれました。プログラムは、C.M. ウェーバー：魔弾の射手序曲、O. メシアン：「峡谷から星々へ」より「恒星の呼び声」、F. リスト：愛の夢 第3番、G. タルティーニ：ヴァイオリンソナタ「悪魔のトリル」、J. ブラームス：ピアノ・ヴァイオリン・ホルンの為の3重奏、アンコールにE. エルガー：愛の挨拶を演奏して下さいました。また楽器の紹介をして下さったおかげで、3つの楽器の仕組みを知り、音色に耳傾けることができ、全身で音楽を感じる



ひと時を過ごしました。中学では、ヴァイオリンの弦が切れるという珍しいハプニングがあり、ステージ上で弦の張替えをして下さいました。最後に高校生徒会のK. Mさんが「普段、学校生活をおくっているこのホールで三人の先生方の演奏に包まれ、日々の焦燥を忘れ、現実から離れ心穏やかな時を過ごすことができました。」とお礼の言葉をお伝えし、幕を閉じました。

(音楽科)

教育実習について

卒業生10名が6月2日から2～3週間、教育実習を行いました。礼拝や教科の授業、HRの活動だけでなく、実習期間中に体育大会もあり、実習生も楽しい中でしっかり役割を果たしていました。

限られた時間の中で、実習生たちは教師として生徒に接すること、教えることや学びの姿勢を引き出すことの難しさ、授業準備の大変さに気付くことができました。彼女たちの今後の活躍を期待します。

(教育実習係)

健康教育講演会（高校）

7月19日(土)にホールにて高校全学年を対象に健康教育を実施しました。講師は、佐々木産婦人科助産師 清水寿恵先生で「わたしの体 わたしの命」というテーマで性教育のご講演をしていただきました。



これから生きていく上で、自分の体、自分の命を大切にできる行動ができるように、妊娠、出産、性感染症、子宮頸がん等についてわかりやすく、熱く教えていただきました。日々、現場で出産のサポートをされ、多くの命と向き合ってきた、清水先生の言葉には重みがあり、生徒たちは心で深く感じて、学ぶことができました。これまで保健の授業で学んだことが、より具体的に自分のこととして捉えられたようです。

今は体の土台作りをする時期であり、自分の体を見直してみることが大切。元々、自分は病気を跳ね返す力を持っている、持っている力で解決することができる。また、自分の体がわかるので基礎体温計で毎日、体温を測定してほしい、生理が始まったら、困った時には気軽に産婦人科を受診してほしいと、お話ししていただきました。

妊娠の仕組み、妊娠カレンダーで妊娠の日にちの数え方を学び、さらに中絶の説明もあり、生徒たちはより真剣に話を聞いていました。出産の説明で胎児の心拍を聞き、続けて赤ちゃんの産声を聞いた時に、会場はほっとしたような、とても温かい雰囲気になりました。

最後に「性」とは相手を思いやる、人間の元になることであり、「性」という字の意味を考えてほしい。命を繋ぐことは生殖と、心を繋ぐことの両方がある。私たちは命を繋ぐ役割を持っている。私たちは最大のピンチであった出産を乗り越えてここにいる。

生きる力が死ぬ力より強かったからここにいる。だから生きる力を使い切ってほしい、「生きる」と力のこもったメッセージでした。

高校生の各学年のクラスルームに今回の講演の動画を配信しています。是非、お子様と一緒にご覧になってみてください。

(高校保健室)

保健室だより (2)

2025年の夏休みが始まります。家族と過ごす時間を大切にしながら、日頃できないことにチャレンジしたり、夏のレジャーを楽しんだり、勉強や部活動に打ち込んだり等、一生の思い出に残る有意義な夏休みとなることを願っています。

何をするにも健康が大切です。「早寝、早起き、朝ごはん」の学校生活リズムを守って過ごしていきましょう。時々、生活リズムが乱れていないかをチェックして、生活を改善していきましょう。

- いつもの時間に起きている
- 朝、昼、夜の三食をきちんと食べている
- 午前中から元気に活動している
- 適度に運動している
- 冷房の温度設定を意識している (外部気温との差は5℃以下が望ましい)
- 寝る1時間前にはスマホ、パソコン等のデジタル機器を使わない
- 疲れたときは早めに休む



夏休みは身体のメンテナンスにもいい機会です。健康診断の結果を確認いただき、必要があれば病院受診をお願いします。

(保健室)

心の健康 (2)

ひまわりの花の似合う夏です。暑い日々、学校は39日間の夏休みに入りますので、これまで以上に家庭が子ども達の生活の場になり、心身の健康管理もご家庭に委ねられます。

夏休みは、なんと936時間になります。大変ですけど、親子の関係を強めていったり家族の和を作り直したり、心身の健康を自己管理する力をつけていくチャンスです。

心と身体は関連していますので、夏の暑さは身体にこたえ、心の面でも意欲が低下したり、イライラしたり、投げやりになりがちです。

暑い日々は、自分の立てたスケジュールにそった規則正しい生活、つまり、基本として起床、食事、勉強、就寝の時間を一定にした生活をしていくことが、「心の健康」を保つことにつながります。

暑さをストレスとなる悪いものと思わないで、親子で工夫し、積極的に『夏』を生活に取り込んでいきましょう。

(カウンセラー)





今月の聖句

「待ち続けるだけでは心が病む。かなえられた望みは命の木。」

箴言 13 章 12 節

創世記 2 章 9 節を始めに旧約聖書で用いられる「命の木」ということばは、神の民が希望を持って待ち望む「メシア（救い主）」を指すもので、キリスト教にとってはイエス・キリストを表すものです。

今年度は例年より多い 229 名の新入生を受け入れるために、例年より多くの中 3 生の生徒たちがオリエンテーションリーダーとして務めました。小学校から中学校へ進学した後輩たちが変わった環境に慣れてもらうために、中 3 生がサポートをするのがオリエンテーションリーダーの役割です。この経験を終えた中 3 生は生徒礼拝で、上記の聖句を用いて次のように話をしてくれました。

今回オリエンテーションリーダーという経験をしたことで、なにかに挑戦する勇気があれば自分も周りも変えていけると感じました。女学院で大切にされている「隣人愛」とは大きな出来事だけによるものではなく、私が変わる、私の行動によって、周りが変わっていくことの意味を知るきっかけとなりました。新しい世界にチャレンジすることは、成功や失敗にとらわれず、自分の考えや知識を深めたり、新しい発見を得ることができることを経験しました。また考えるだけでなく行動することで、思う以上の達成感を得られ、自分に対しての自信へと繋がり、自分の成長の糧になると思います。そうした挑戦は新たな望みとなり、その望みの積み重ねが皆さんにとって最も大切な命の木になると、今日の聖書箇所は語りかけていると思います。

原爆 80 周年を迎える今年も、先達からの挑戦が後輩たちへ受け継がれ、数々の挑戦がわたしたちの望み（希望）となっています。その望み（希望）の積み重ねがわたしたちの証（アワーストーリ）として、「命の木」と共に生きる女学院の歩みの上に、今日も漂っています。神様と共に働くものたちの昔からの祈りと共に。

（聖書科 K. C）

